

地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会 COSPAR 小委員会（第 24 期・第 3 回）
議事録

日 時 平成 30 年 9 月 27 日（木）16：30～18：00

会 場 国立極地研究所・所長室

（※〒190-8518 立川市緑町 10-3）

（※ただし、上記会場をメインとした Zoom による遠隔会議）

出席者：新井、笠井、河合、佐々木、東覚、中島、中村、藤井、藤本、矢野、山岸、山崎、吉田、和田（新井、中村のみメイン会場。その他は Zoom による参加）

欠席者：常田、山田、高橋

議事に先立ち、議事録（資料 1）を確認した。

議事

1. 経過報告

第 42 回 COSPAR 総会・代表者会議以外の経過報告は特になかった。

2. 第 42 回 COSPAR 総会・代表者会議の報告（資料 2、資料 3）

(1) 総会は、3230 名が参加、米国が 48%で NASA 関係者が多数参加。日本は 4 位で 5 %（約 160 名）。（中村）

(2) 代表者会議では、Len Fisk 会長（米）の再任が報告された。副会長には、Glassmeier(独)、Panasyuk(露)を選出。Bureau には、藤本委員が選出された。また、Nomination Committee に常田委員が選出された。2022 年総会はアテネ（ギリシャ）に決定した。また、財務状況について、2016 年イスタンブール総会の中止による損失は 33 万ユーロとなり、資産残高が 108.8 万ユーロに減少したが、いまのところ心配される水準ではないことが報告された。

第 4 回の COSPAR Symposium は、Herzliya(イスラエル)で 2019 年 11 月 4-8 日に行われる。（中村）

さらに藤本委員（国代表）より、以下の補足があった。

・COSPAR の 2024 年開催地立候補の場合、2019 中に Secretariat から必要情報を得て準備し、2020 年 3 月の Bureau Meeting にドキュメントを提出要。2024 年はアジアからというのもあり得るとの会長の見解。政府レベル(地方政府か中央かは不明)でのサポートが必要。会場が場所的に集中していること、ホテルのキャパシティ、コンベンションビューローなどによる運営なども重要。開催 4 年前の総会でプレゼンを行い、2 年前には会場など仔細までの準備とプロの運営組織による

準備が整っている必要がある。なお、豪は 10 年前から準備を始めた模様。また、シドニー市は、収益もさることながら、知名度が上がることも興味があったようである。

・COSPAR の現時点での 4 つの課題は、南北問題、惑星保護、気候変動、宇宙天気である。

(3) Bureau meeting は、21 日午前に開催。例年と比較してあまるコミッションからの報告などは行われなかった。PPP（惑星保護パネル）については選挙でなく各国宇宙機関からの代表が委員となる構成になった。2022 年総会開催地の事前評価では、セッション部屋数、部屋が 1 カ所に集中していること、大学でなくコンベンションセンターなどの施設であることなどが重視された。（佐々木委員）

(4) 矢野委員から SC-B および PPP の報告があった。矢野委員は B1 委員長に再任。PPP は今期から各国宇宙機関代表と研究者の指名制に変更となった。今後ミッション案の調整が重要なタスクとなる模様。日本からの委員は、矢野委員にかわり常田委員となる。また、中村昭子さんも日本から参加する。そのほか、小型衛星のセッションも成功であった。また ISAS 展示ブースについて報告があった。

(5) 笠井委員からの SC-A に関する報告を資料で確認した。笠井委員は GEO Data sharing WG の副議長となったとのこと。Monitoring subgroup に新井が任命された。また、新井委員から補足があり、今回 A0 セッションが設けられ、CB に力点が置かれた件報告があった。

(6) 河合委員から、SC-E の報告があった。セッションは活発であったが、2020 の総会からサブコミッションあたり 3 件のイベントに制限という通知があり問題となっている。また、引き続き河合委員が vice-chair に選任された。なお、Chair の Ubertaini が Bureau メンバーとなったため、空席となっており、早急に後任を決めるべき状況にある。（併せて SC-B も藤本委員が Bureau となったので vice-chair が欠員になっている）。講演について No show が多かった点も報告された。

3. 新たな顕彰の提案について

資料 4 に基づき、新井委員から日本発の新たな顕彰を COSPAR に提案することに関する調査状況が報告された。Terms of reference を作成し、賞状やメダル予算を確保することで、3 月の Bureau meeting に申請することになる。2019 年 3 月に認められれば 2020 年の総会での表彰に間に合う。その際、日本学術会議が申請するのか、ISRO のような特定の機関とするのか、また予算をどうするかなどの点が課題として挙げられた。新井委員が現在の 5 カ国の顕彰の状況を調査して次回議論を継続することとなった。

4. 2024 年 COSPAR 総会について

下記のような意見交換があった。

藤本：JAXA の一般職職員を LOC に巻き込むことは困難である。ISAS の教育職員だけではマンパワー不足。推進派の論点はどこにあるのか？

中村：第1回で説明のとおり、前回の日本開催から年月がたっていることによる各国や事務局の期待、若手育成への期待などが挙げられるが、それだけでは弱いという点も了解している。

藤本：会長の言う COSPAR の4課題との関わりを明確にする必要がある。JAXA 全体としては COSPAR との関わりは小さいと言わざるを得ない。

藤井：大きな会議であり日本でしっかりした組織を形成して取り組む必要がある。

吉田：1000 人規模の会議を開催した経験者が不足では？90年代とは寄付や助成を集める困難さが違ってきている。収支をよく考える必要がある。マンパワーも同様。

藤本：シドニー開催は10年前から検討していた。自治体が乗り気である必要あり。

中村：ISAS だけでなく多くの組織から LOC を出す必要があるとは認識している。

藤井：総会開催の予算の情報を精査する必要があるだろう。

河合：Pasadena の総会は、当初は赤字予想であったが On-site の登録が多く黒字になった模様である。2020 年に SPIE が横浜で開催されるので参考になろう。

以上の議論を経て、次回までに Sydney, Pasadena などの総会の予算状況を入手して議論を継続することとした。次回の小委員会は3ヶ月後をめどに開催する。

5. その他

とくになし。

以上